

序論) 問題定義

私たちは今まで第 1 コリントの 15 章から復活について教えられてきました。コリント教会には「死者の復活はない」という人たちがおり、パウロはそういった人たちに対して、キリストの死と復活が福音の中心であることを最初に説明し、その後キリストの復活は歴史的事実であり、私たちの信仰の土台であること、よみがえりがなければ私たちの信仰は空しいものになってしまうことを語ってきました。

キリストは眠った者の初穂として復活されました。だからこそその主イエス・キリストを信じる私たちも復活することができるのです。

ところが、このように説明してもなお、死者の復活に対して疑問を抱く人たちのことを想定して、パウロは 35 節のように言っています。

15:35 しかし、「死者はどのようにしてよみがえるのか。どのようなからで来るのか」と言う人がいるでしょう。

もしキリスト教が言うように復活が本当にあるのなら、それがどのようにして行われ、その復活の体はどのようなものであるのかというのは、現代の多くの人も少なからず疑問に思うのではないのでしょうか。

今日はパウロがこの 2 つの問いにどのように答えているのかを一緒に学んでいきたいと思います。

1) どのようによみがえるのか？

まずは最初の問い、「どのようにしてよみがえるのか？」から教えられていきましょう。

① 死を通して

パウロはまずこの問いに対して答えるために、人が行う種まきを想像させます。

15:36 愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ生かされません。

「あなたが蒔くものは、死ななければ生かされません。」というのは、人が蒔く種は一度土に埋まり死んだようにならなければ、新しい命として芽を生やすことは

できないということを示しています。おそらくこれは人が死んで土に葬られることを念頭においての表現でしょう。

植物が新しい命として成長するためには、一度、土に埋められなければいけません。それと同じように、私たちも【主】にあって新しい命を得るためには、土に埋葬される、つまり死を経験しなければいけないのです。

神様は「死」を通して私たちに新しい命を与えるようにされました。だから私たちにとって死は、復活の命を得るための通過点でしかないのです。

② 神様の主権とみわざによって天（神の国）に相応しいからだに

そしてもう一つ大切なことは、この復活は人の力によってできることではなく、神様の主権とその御業によってなされるということです。37 節を読みましょう。

15:37 また、あなたが蒔くものは、後にできるからだではなく、麦であれ、そのほかの穀物であれ、ただの種粒です。

先ほどパウロは人の復活を種まきに例えて表現していましたが、当然、人がまく種ってというのはただの植物の種であって私たちをよみがえらせる種ではありません。では私たちをよみがえらせ、新しい命を与える種まきをなさるのは誰かというと、全てのいのちの創造主である神様です。だからパウロはその神様の創造の御業について 38 節から 41 節でこのように語っています。

15:38 しかし神は、みこころのままに、それにからだを与え、それぞれの種にそれ自身のからだをお与えになります。

15:39 どんな肉も同じではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉、それぞれ違います。

15:40 また、天上のからだもあり、地上のからだもあり、天上のからだの輝きと地上のからだの輝きは異なり、

15:41 太陽の輝き、月の輝き、星の輝き、それぞれ違います。星と星の間でも輝きが違います。

人間には人間の肉、獣には獣の肉、鳥には鳥の肉、魚には魚の肉、というのは現代の私たちでもよくわかるものだと思います。もし魚が人間のような肉の付き方をしていたら、あのよう自由に泳げないと思いますし、もし鳥が地上の獣のような肉体を持っていたら、やっぱり空を自由に飛ぶことはできなかったでしょう。

神様はそれぞれにふさわしい肉体をお与えになりました。そして、それは夜空に輝く星々についても同じことが言えます。41 節にあるように、太陽には太陽の輝き、月には月の輝き、星には星の輝きをそれぞれにお与えになって、夜に輝くようにされました。

だから神様が、やがて神の国で生きるために与えてくださる天上のからだも、私たちがこの地上で生きた体とは同じではないのです。

だから神様が「どのように私たちを復活させてくださるか」というと、地上の死を通過点として、人の力ではなく、神様の主権と御業によって、私たちが天上、つまり神の国でふさわしく生きていけるからだを与えることによって、私たちを復活させてくださるのです。

2) どのようなからだで復活するのか？

では、その神様が与えてくださる神の国にふさわしい体とはどういうものなのでしょう？

① 地上のからだとは違うもの

先ほどの御言葉からも分かるようにそのからだは、私たちが今用いているこの地上のからだとは異なるからだです。

② 復活の後の世界に相応しいからだ

でも、復活の後の世界、永遠の世界、神の国に相応しいからだです。

③ 復活の体は具体的にはどのようなものか

では、そのからだとはどのようなものかということ、42 から 44 節にわかりやすく地上のからだと対比しながら書かれています。

15:42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、

15:43 卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらされ、

15:44 血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

表にするとこうなります。

地上のからだ	復活のからだ
朽ちるもの	朽ちないもの
卑しいもの	栄光あるもの
弱いもの	力あるもの
血肉のからだ	御霊に属するからだ

朽ちるもの から 朽ちないものというのは、病気、老化、死から完全に解放された、永遠に生きる体にされるということです。

また、卑しいもの から 栄光あるものというのは、罪の性質や恥ずかしい歩みをしてしまう「からだ」から、キリストの輝きを反映する体に変えられるということです。

そして、弱いもの から 力あるものというのは、疲労や限界を持つ体から、神様の力に満ちた永遠に活力がある強靱な体へ変わることを意味しています。

そして、最後の血肉のからだ から 御霊に属するからだというのは、自然の欲求に支配される体から、聖霊に完全に導かれ、従う体へと変えられることを意味しています。

特にみなさんに覚えていただきたいのは、復活の体とは、御霊に属する体。つまり、聖霊様のご支配の中で、聖霊様ご自身をいのちとする体であるということです。私たちのこの地上の体は時に聖霊様の導きを無視し、この世の欲望に支配されます。聖霊様を悲しませることをしてしまう体です。でも【主】によって与えられる復活の体はもう聖霊様ご自身が命そのものとなっておられる体なので、決して罪を犯して聖霊様を悲しませることがなく、むしろ神様の栄光を燦然と輝かせることができる最高の体なのです。

④ 復活の体は誰に属するのか？

だから復活の体は御霊に属する体なので、もはや最初の人であるアダムが犯した罪の影響を受けない体となっています。そのことを説明しているのが 45 節から 48 節です。ちょっと難しいので一節ずつ読んでいきましょう。

15:45 こう書かれています。「最初の人アダムは生きるものとなった。」しかし、最後のアダムはいのちを与える御霊となりました。

「最初の人アダム」というのはわかりますね。ことばどおり、創世記に出てくるアダムのことです。そして、「最後のアダム」というのは、私たちのために死なれ、よみがえってくださった【主】イエス・キリストです。

イエス・キリストは、よみがえった後、天に昇られて、三位一体の神である聖霊様を私たちにお与えになり、私たちに神の民としてのいのちを与えてくださいました。

15:46 最初にあったのは、御霊のものではなく血肉のものです。御霊のものは後に来るのです。

最初にあったもの、つまりアダムにあった命というのは、血肉のもの、つまり地上の命で、いずれ朽ちて、時には罪を犯し、限界のあるいのちでした。でも御霊の命は、「後」^{あと}・・・つまり、復活の時に与えられるものです。

そして、(47 節表示) この復活のいのちを与えてくださるキリストは、地上ではなく天からこられたお方です。

だから、キリストによって新しいいのちが与えられた者がどのような者かという
と、48 節

15:48 土で造られた者たちはみな、この土で造られた人に似ており、天に属する者たちはみな、この天に属する方に似ています。

「天に属する方に似ている」つまり、【主】イエスキリストを信じ、聖霊様が与えられている私たちは、御霊に属し、キリストに似たものとされているのです。

だから、第二コリント 3 章 18 節にはこのように書かれています。

Ⅱ コリント 3:18

私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

私たちは【主】イエスを信じ、御霊を与えられた時から、少しずつ、キリストと同じ形に変えられていっています。

それでも、この地上のからだは朽ちて、卑しくて、弱いからだです。では、完全にキリストと同じ姿に変えられるためにはどうしたらいいのでしょうか。それは復活によって完全にキリストのかたちを持つものとされなければいけないのです。

だから、パウロは 49 節のようにいっています。

15:49 私たちは、土で造られた人のかたちを持っていたように、天に属する方のかたちも持つことになるのです。

つまり、復活のからだとは、最初の人であるアダムの影響から切り離され、キリストが与えてくださった御霊をいのちとするからだであり、完全に神のかたち、キリストのかたちを持つからだなのです。

⑤ 復活のからだは必須

つまり復活というのは単純なこの世の体の再生ではなく、全く新しい御霊の体、栄光の体、キリストの形を持った体に変えられるということです。これはやがて私たちが神の国、永遠の世界で生きていくためには必要なことです。パウロは 50 節でこのように言っています。

15:50 兄弟たち、私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

神様の約束として、神様は私たちに神の国を相続させたい、与えたいと思っておられます。でも、その神の国を私たちが受け取るためには、復活によって、完全に新しいからだを与えられなければいけないのです。

だから、死者のよみがえりを否定し、復活の体を否定する者は、神の国を受け取ることも否定するということになってしまうのです。

結論)

今日、私たちは聖書を通して、「死者はどのように復活するのか」、そして「どのようなからだで復活するのか」という二つの問いに対する答えを教えてくださいました。

第一に、復活とは、単に死んだものが、そのまま生き返るということではありません。それは、種が地に蒔かれて死に、そこから全く新しい輝かしい命が芽吹くように、神様の主権と力によってなされる神の国に相応しいいのちと体を与えられる大きな変化なのです。だから、私たちにとって、死は終わりではなく、栄光の体を得るための通過点に過ぎません。

第二に、その新しいからだは、今の私たちが持っているこの世の朽ちていく、卑しく、弱いからだとは全く異なります。それは「御霊に属するからだ」であり、病気や老いはもちろんのこと、罪や死の支配を受けず、キリストの栄光を映し出す、神の国にふさわしい力強いからだです。

私たちは今、この地上にあって、「土で造られた者」としてのアダムのかたちを持って歩んでいます。だから、時には病気になったり、老いを感じたり、誘惑に負けてしまったりして、やがては死を迎えます。そして、それは私たちにとって辛く悲しい事のように思えるかもしれません。

しかし、愛する皆さん、この地上における自分の弱さ、足りなさをみて落ち込まないようにしましょう。

なぜならば、【主】はそんな弱い私たちの地上の歩みを、やがてキリストによって与えられる御霊に属するからだを受け取るための通過点としてくださっているからです。【主】は、私たちのこの地上の歩みと死の先に、地上のからだとは全くの別物である栄光のからだを用意してくださっています。

そして、私たちはまだ、復活のからだを与えられていませんが、既に天に属する者として、キリストに似るように日々変えられています。

だからこそ、地上における弱さ足りなさをみて嘆くのではなく、【主】によって変えられる事を信じ、希望をもって聖霊様の導きに従う歩みをしていきましょう。

聖霊様は復活のからだのいのちとなられるお方です。そうであるのならば、私たちが地上において、聖霊様の導きに従って歩むとき、やがて与えられる復活のからだの喜び、御霊に属する体の幸いを、前もって体験することに繋がるのではないのでしょうか。

復活のからだは、神の国を相続するからだです。私たちも、この地上において聖霊様とキリストの導きに従いながら、神の国の喜びを味わう者となっていきましょう。